

創造学報

Toyohashi Sozo University News

地域・職業教育・人間教育



2021.春号
VOL.43

- P1——**特集1** 豊橋創造大学創立25周年、
理学療法学科15周年
- P3——**特集2** 「なりたい自分になるために」
就職支援最前線
- P4——**特集3** 知の創造拠点としてともに歩む
豊橋創造大学附属図書館
- P5——研究室から／学術研究支援室
- P7——SOZOトピックス

保健医療学部 理学療法学科2年
運動器理学療法評価学実習
(深部腱反射の検査)



豊橋創造大学

豊橋創造大学創立25周年 | 25年を振り返る

豊橋創造大学は、1996(平成8)年、日本で初めて起業家マインドを理念に掲げて開学しました。実践的教育という考えのもとに経営情報学部経営情報学科を設置し、「自ら考えて判断し行動することのできる創造性豊かな人材を養成する」ことを目指してスタート。2021年4月、25周年を迎えます。今回は、大学設立の経緯やエピソードなどを伊藤晴康学長・理事長と、経営学部学部長の佐藤勝尚教授に、理学療法学科長の金井章教授には15周年を迎える理学療法学科について伺いました。

「社会の要請に対応した実践教育」をめざす教育機関としての役割

豊橋創造大学の設立計画は、開学3年前から始まり、慶應義塾大学商学部教授の佐藤芳雄氏を学長予定者として「中小企業者及び後継者の養成を特色とする」ことを目的に、具体的な準備に入りました。伊藤晴康学長は、開学の背景には、地元からの熱い支援があったことを話されました。「開学に向けての設置申請にあたっては、地域からの要望があることを示す必要があり、豊橋市と豊橋商工会議所から要望書をいただきました。豊橋市からの要望書には、豊橋短期大学開学以来、地域社会の要望に対し、着実にその役割を果たしてきた旨が記載され、今後の地域産業を担う人材育成の拠点として四年制大学の設置を要望されました」。当時、豊橋市を中心とする東三河地域の飛躍が期待され、この地域に定着する高級情報処理技術者の養成が急務とされた時代でした。

「本学園は、地域社会の状況を踏まえ、ご要望にお応えしようと、新設に向かって準備し、地元の皆さんの支援や多くの方のご尽力のもとに開学しました」。構想は90年代の初め。その後、入念に準備し、1996年に、「社会の要請に対応した実践教育」という建学の精神にもとづき、常に新鮮で活力のある学部づくりを目指し、日本で初めて「起業家マインド」掲げてスタートしました。「創造」は、短大を作るときの主旨にもあり、4年制開学の時の教育目標にも謳われていた言葉です。初代学長だった佐藤芳雄先生のお考えのなかにも「創造」という言葉があり、学園との思いが偶然一致しました。当時、時代を先駆けた言葉でした」。

福祉や医療系の学部学科を増設

本学では、2000年に専攻科福祉専攻を設置し、地域の医療・福祉分野の方々との交流が生まれました。その後、2006年にリハビリテーション学部を設置する際には、名古屋大学や北里大学をはじめ、医療系大学の方々とのつながりも強化されました。リハビリテーション学部を設置したことにより、愛知県三河地域初の理学療法士養成施設のある大学として多くの期待が集まりました。

時代は変化し、高齢者が増えてきた背景を受けて、全国的に医療・保健系の大学の人気が高まり、新しい資格として理学療法士が注目され始めていました。3年後の2009年には看護学科が開設され、学部名も保健医療学部と変更し、理学療法学科と看護学科の2学科になりました。「看護学科も、地元からの要請と医師会からの要望がありました。地域の手厚い支援と、実習においては、豊橋医療センターがバックアップすることが約束されました。医療センターの受け入れ対応がなかったら新規参入は大変だったと思います」。



学長・理事長 伊藤晴康

初心を忘れず、地域の明日を創造する

「地域の皆さんに支えられながら25年間やって来ました。経営学部のインターンシップを単位として認めることも、他校に先駆けての実施でした。企業の人を招いての総合講座も、新しい試みで、経済界の著名な方に来ていただきました。短期大学では、『企業実務実習』という名称でインターンシップを実施していましたので素地はありましたが、新設だから可能だったと思います。新しい学びを形にしながら、地域の大学としての存在感を高めていきました」と伊藤学長は振り返ります。「25年前、情報の時代と言われ、Windows95 がヒットし、ようやくパソコンが一般的になった頃でした。今再び、時代は情報に注目し、デジタルトランスフォーメーション(DX)

の時代に向かっていきます。こうした時代の変化を受けて、経営学部では時代が求める情報コミュニケーションに力を入れていきます。本学の開学趣旨文には『地域』というキーワードがあり、今も昔も、地域の明日を担う人材を地域で育てることを目指しています。地域で求められる人を養成することが、地元の方で育ててきた大学としての恩返しだと考えております。初心を忘れず、地域の明日を創造する大学として頑張っています」。



▲開学当時のパンフレット等



『創造』の25年を振り返る

自分で考え、判断し、実行できる起業家マインドの創造は今も、学生たちの意欲を掻き立てる

●佐藤勝尚元学長・経営学部長は、経営情報学部開学の時、一番若い教授として教鞭をとり、佐藤芳雄初代学長の「創造」への熱い思いを直接感じていました。「中小企業学会会長でもあった佐藤芳雄学長は、『創造』という言葉に熱い思いを持ち、これからの時代、アントレプレナーシップが重視されると、起業家マインドを強く打ち出していました。新しいことをやるのが重要なんだ、フロントランナーにならなければいけない、と言っていたのを覚えています。「自立心と責任感を持ち、自ら仕事を創造していける人材育成を、ジグソーパズルとレゴで語れば、ジグソーパズルは決まったピースを当てはめるが、レゴは部品も自由、組み合わせも自由だ。ジグソーパズルではなくレゴができる子が求められる時代がくると。ピースが決まっていないから失敗もあるが失敗しないと学ばない、失敗しないと

成長しない。失敗から学ぶ、成功からも学ぶことが大切です」。

●豊橋創造大学経営情報学部は、「社会の要請に対応した実践教育」という建学の精神に基づいて開学。地域の経済活動や起業活動に必要とされる人材育成と起業家マインドの創造を掲げました。本物の起業家からリアルにビジネスを学ぶ総合講座は、学生たちに刺激を与え、意欲を掻き立てました。2000年、「創造性豊かな次世代社会の担い手を育成する」という理念のもとに大学院が設置され、女性の起業塾がスタートし、現在のSOZO起業塾に発展しています。SOZO起業塾は今年12年目。参加者は地元企業の人たちが中心で、これまでに92人が受講しました。修了した人の中には、新たに会社や事業部を作った人などがでています。「昨年は、コロナ禍ということ踏まえて中止しましたが、今年は、グ



元学長・経営学部長 **佐藤勝尚**

ループワークの形態を変えて実施する予定です。起業塾の開催は、地域の人たちへの教育機会をもうけ、最新の知見を提供し貢献することは、社会への本学の一つの役割だと考えています」。

●社会的基礎力を育成する実践の場として学部3年生が1年かけて取り組むSOZOプロジェクトはプロジェクト科目から生まれました。「全学的に行うプロジェクト科目群を作ったのは、本学が全国では初めてだと思う。プロジェクトは学外に出なければなりません。外の企業と組んでアウトプットする。難しいことだが、そういう教育をしないといけないと考えています。何もない状態から何かを生み出す。だめならやり直せばいい。失敗してもいい、志が重要です。『地域に生きる道はあるが、地域からはばたけ』と学生たちに言いたい」と佐藤学部長。開学時の精神は、脈々と続いています。

理学療法学科15周年

500人以上の卒業生が地域のリハビリテーションの場で活躍しています

●今年、理学療法学科は15年目を迎え、現在500人以上の卒業生が理学療法士として地域で活躍しています。金井章理学療法学科長は、学科開設2年目に赴任し14年目。理学療法士をめざす学生たちに寄り添ってきました。「理学療法学科に入学してきた学生たちの多くが、スポーツでケガをして理学療法に関わったことから理学療法士になりたいと、はっきりした目標をもった学生たちです。それは今も変わりません。学生たちは、4年間の学生生活のなかで、回復期リハ、急性期リハ、維持期リハを学び、さまざまな経験をする中でめざす方向を見つけていきます。明確な目標をもったまじめな学生が増えているのを感じます」。

●10年目を迎えた時、カリキュラムを見直しました。理学療法士として働く卒業生にアンケートを行い、その結果から、臨床実践能力を高めるカリキュラムが求め

られていることがわかり、臨床実習の指導に反映させました。また、高校生のアンケートからはスポーツ理学療法が求められていることが明確になり、スポーツ関連科目を充実させました。改善されたカリキュラムは、リハビリテーション教育評価機構から高い評価判定をもらい、自信をもってリハビリ教育に取り組んでいます。

●2019年、高度リハビリテーション人材育成センターを開設し、学生教育だけでなく、地域の医療スタッフの人材育成をしようとして、臨床実習指導者講習会などを開き、地域に貢献する活動を進めています。「センターの開設により、これまで続けてきたものがようやく形となり、地域の医療スタッフの人材育成にも貢献できるようになりました」。

●東三河唯一の理学療法士を育成する学校として歩んできた年月によって、この実習施設ともほぼ連携がとれる環境



理学療法学科長 **金井章**

になりました。「どこに行ってもかならず卒業生がおり、学生も私たちがやりやすい環境ができあがっています。また、卒業生は、理学療法研究会を定期的に行っており、卒後の教育についてもさまざまなことができるようになりました」。今、理学療法学科は、他学科との連携を通して、学科横断の研究プロジェクトや多職種連携の教育を始めています。「経営学部の先生たちと共同研究を展開するなど、各学科がお互いに関わりあう研究を行っていきます」。カリキュラムの改善と施設の連携によって専門領域が広がり、さらに前へ進んでいます。

公務員試験支援センターの実績と支援体制

公務員を志望する学生をトータルで支援する公務員試験支援センターで学んだ学生たちが公務員試験に合格し、この春から希望の職場に勤めます。その中から3人の合格者の声を紹介。2021年から変わる支援体制についてもご案内します。

2020年度公務員試験支援センター支援実績

| 合格者の声 |

豊根村役場に内定(地方公務員)

キャリアプランニング科 **松下真子**さん

公務員試験の勉強を始めたのは1年生の9月頃からです。翌年2月の対策講座で基礎から応用までを短期集中的に学び、その後は試験に関係する科目を履修しながら試験に臨みました。また、試験について何でも相談できる先生方がいましたので安心して受験することができました。試験当日は冷静に問題を解き、面接試験では和やかな雰囲気の中、落ち着いて答えることができました。

静岡地方検察庁に合格(国家公務員)

キャリアプランニング科 **高木莉子**さん

1年次は公務員コースの授業を受講し、本格的に勉強を始めたのは、2月の対策講座からです。2年次は過去問題を中心に勉強をし、普段から問題を解く時の時間配分にも気をつけるようにしました。また、ボランティアや市のワークショップ等に参加し、さまざまな人と接することで新しい発見や成長を感じることができ、このような経験が合格に繋がったのではないかと考えています。

| 各講座の内容 |

【基礎対策講座】秋学期水曜日5限
公務員試験の特徴的な出題に対応。

【過去問題演習講座】春学期水曜日5限
模試形式で過去問題に取り組む講座。

【SPI対策講座】
一部の公務員試験にも取り入れられているSPI試験の対策を行います。

【実践講座】
4年制学生向けの対策講座。

【基礎講座】
2月期から公務員試験の学習を始める学生向け講座。

【実力アップ講座】
短大生向けの過去問題研究講座。

【過去問演習講座】
公務員の過去問題に取り組む講座



▲豊橋わかば議会での松下さん(右)と高木さん(左)

公務員試験支援センターの支援体制

これまで2月を中心に実施してきた公務員講座を、2021年度春学期より水曜日5限目に設定し、全学向けに実施します。

高校生対象の 公務員試験対策講座

2021年度採用試験の実績(内定)

- (国家公務員)税務職員、刑務官
- (地方公務員)豊橋市役所、愛知県職員
- (警察)愛知県警察本部
- (消防)豊橋市消防本部、田原市消防本部

| 合格者の声 |



豊橋市役所に内定(地方公務員)

国府高校普通科 **勝野千夏**さん

高校2年の頃から公務員講座に参加し勉強を始めました。周囲に就職する同級生が少なかったため講座で提供される情報はとても役に立ちました。コロナ禍でもオンラインの授業が継続されて心強かったです。web面接の練習もあり、初めてのことで自信を持って取り組むことができました。無理だと思っていた豊橋市に内定をもらい、両親も喜び、挑戦してよかったです。

◆高校生のための公務員試験講座は、2021年度から、オンライン化と共に高品質の講義をお届けするために会員制になります(年会費5,000円)。◆スマホでも参加可能で、気軽に受講することができます。詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.sozo.ac.jp/publicservant>

<http://www.sozo.ac.jp/publicservant>

短期大学部で、愛知県主催の「女子学生のための就活応援講座」開催

2020年11月13日、本学短期大学部で、愛知県主催の「女子学生のための就活応援講座」が開催され、キャリアプランニング科の1、2年生約50人が受講しました。テーマは、「イマドキ女性の働き方を知ろう」

I部では、「ジョシゴト応援講座」と題して、キャリアコンサルタントの高橋聡子さんが講演。ご自身の経験を話しながら、「女性が働くことはどういうことか」と学

生たちに聞かれました。

2部では、東三河ヤクルト販売の大須賀佳奈さんとミスコンシャスの大羽理紗さんをゲストスピーカーに迎え、「働く先輩とのトークセッション」を行いました。二人は「働いているからこそ、一人の社会人として、お母さんとしても頑張れる」と話し、学生たちの就活を応援しました。



*「女子学生のための就活応援講座」は、「女性が元気に働き続けられる愛知」の実現を推進している「あいち女性の活躍促進プロジェクト」事業の一つ。2020年度は3大学で実施されました。

学生の学びや思索の深化を 応援し、教育・研究をサポート

1996年、大学の開学とともにオープンした図書・情報センターは、伊藤晴康学長の設計による、三層吹き抜けのエントランスホールを持つ3階建ての複合館です。1階には図書館とキャリアセンター、地域連携・広報センター、公務員試験支援センターが併設されています。図書館は、1階から3階までの各フロアに特徴ある図書や雑誌などを配置し、担当の図書館司書が対応します。今回は、本学附属図書館をクローズアップ！



蔵書冊数は、12万6000冊以上

本学図書館の蔵書冊数は、12万6,000冊以上。1998年から地域貢献の一環として、地域住民の方々へ一般開放してきました。また、国立情報学研究所のシステムに参加し、全国各地の大学とつながり、大きな一つの図書館のように相互貸借や複写を行う環境が整備されています。

**情報を取捨選択し、
必要な情報を見極め、
実践的に生かすお手伝いをします**

「図書館は、情報基盤としての機能があります。マスメディアをはじめ様々な情報にはフェイクもありますので、それらを鵜呑みにするのではなく、複数の情報を比較検討し、見極める目を、図書館を利用することで養ってもらいたい」と主査の中島慶子さん。在学生の利用のみならず、卒業生にも気軽に利用してもらい、サービスや情報提供を通じて地域とつながり、地域の皆さんのお役に立ちたいと考えています。「情報を探す方法が理解できれば、より広い視野で調べられるようになります。膨大な情報の中から有益な情報を引き出す力を身に付けてもらうよう、ぜひ図書館をフルに活用してください」と語っていました。



▲3階フロアの一角に並ぶ研究個室



▲調べものの相談は2階カウンターで

2階フロア 調べものを深める場

理学療法学科・看護学科の医学関連図書の書架をメインに、バラエティ豊かな蔵書を揃えています。医療専門雑誌には、全国から複写の依頼が来るような希少な雑誌もあります。検索端末で探しきれない調べものについては図書館スタッフがサポート。学生から調べたい内容を引き出し、一緒に探し提供 するなどのお手伝いをしています。

3階フロア 研究と思索の場

社会科学分野から文学まで幅広く、経営学科やキャリアプランニング科の学生御用達の蔵書が多くあります。3階フロアは私語厳禁。静かな環境で集中できることから、課題や卒論がはかどる空間になっており、一人で利用する研究個室も充実しています。



▲3階からの豊川の眺めが好評

1階フロア 人と情報の交流の場

学生の学びを知る図書館ならではの図書を揃え、選びやすく各コーナーを展開。絵本コーナーは幼児教育・保育科の学生で賑わっています。また、キャリアセンターが併設されていることから、資格・就職関連コーナーを設けています。パソコン学習コーナーやアクティブゾーンも設置され、人と情報の交流の場となっています。



▲大型絵本も充実



▲図書館司書が選んで紹介

●保健医療学部 理学療法学科

1000年以上前に英語で書かれた文献を読む

専門は古英語で、5世紀から11世紀頃の英語で書かれた文献が研究対象です。最近では、古英語時代の教育や古英語文学で議論のある箇所解釈などを扱っています。特に関心があるのは、当時の著者が物事をどのようにとらえていたかということやその背景を明らかにすることです。1000年以上も前に現代とは異なる文化背景で書かれた内容であるにもかかわらず、現代社会にお

るものとそれほど変わらない考え方が見られることもあります。また、当時の文化にはキリスト教の影響はあるものの、それ以前の考え方・世界観の名残もしばしば見られます。その中でも例えばアニミズム的な考え方などは日本文化と少なからず共通点があり、理解しやすいものです。このような部分には、日本で古英語文学を研究する利点があると考えています。

船井純平

保健医療学部 理学療法学科 准教授
愛知県出身。学生時代は東京で過ごし、その後は愛知県内で教員生活を送る。2020年4月、本学赴任。



●保健医療学部 看護学科

成人看護学(急性期)領域で、周術期看護の質の向上を目指した看護のエビデンスを作る

手術室での看護師としての臨床経験から、患者が安全に安心して手術を受けて回復する援助について研究しています。近年の入院期間短縮化により、外来での周術期看護の重要性が高まっています。現在は、術後回復を促進するために患者の術前のセルフケアを支援する「術前外来」での看護師の看護実践とそのアウトカムを開発する研究に取り組んでいます。また、成人看護学(急性期)領域では本学を卒業した新卒看護師対象に「呼吸・循環器系モニタリ

ング研修会」を年1回開催しています。複数のシミュレーターを活用し、心電図の読み方や呼吸音の聴取とアセスメントの講義・演習を行う基礎編と急変時の対応のシミュレーション演習の応用編を実施しています。今年はCOVID-19の感染防止のために休会しましたが、感染状況が落ち着いたら再開し、急変に強い新卒看護師の育成にも取り組みます。

中村裕美

保健医療学部 看護学科 教授
首都大学東京(現:東京都立大学)大学院人間健康科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。2017年より現職。兵庫医科大学医療人育成センター非常勤講師。



●経営学部 経営学科

経営システム工学研究室 ～複雑さをシステムとして考える～

社会や経営組織においては、対象や問題が大規模あるいは複雑すぎてしばしば取り扱が難しくなることがあります。経営システム工学は、複雑な対象をシステムとして捉える事によって解決しようとする考え方や技術です。システムは色々な要素(部分システム)が関係して全体が機能しているので、システム工学が複雑な物事を考える時に非常に有用になります。また、複雑な動きをする予測しにくい特性を持つカオス性も重要な理論

です。システム工学は、様々な科学や技術を用いた総合的な思考方法や技術体系なので、最新技術を積極的に利用するのも特徴の一つです。最近、AIやコンピュータ予測が流行していますが、対象が大規模なものはシステム工学的アプローチによるものです。

経営システム工学研究室(今井ゼミ)には、学部生3・4年生合わせて10名が在籍。社会や経営組織などの身近な問題をシステム思考やコンピュータシミュ

今井正文

経営学部 経営学科 教授
青森県出身、都立科学技術大学院修了、博士(工学)。平成9年に本学に着任、主に経営システム工学、情報ネットワーク論等を担当。専門は経営システム工学や時系列データのカオス性等。

レーションを使って解決できることを体感できるゼミを目指して研究活動しています。



●短期大学部 幼児教育・保育科

これからの福祉のキーワードは、「えん」。それを社会に届けます。

私の主な専門は「ソーシャルワーク」です。社会全体から個人に至る「丸ごと(総合的・包括的)」の視点で、何らかの生活困難を抱えている人々・家庭・地域社会を支え、解決に導く専門領域で、それを担う組織の構築・運営・連携も領域としています。キーワードは「えん」です。例えば、人々へのエンパシー(思いやり、共感)を基盤に、縁(つながり)、エンカウンター(出会い・かかわり)、演(自己

表現)、園・苑・宴(居場所)、円(顔合わせ、安定した人間関係)、エンゲージメント(互恵関係)、エンパワメント(生きる意欲・生きる力)、延(再挑戦)、艶(生活の充実)を支援し、「夢(む)遠(えん)・無(む)えん」を防ぐことです。授業では、視聴覚教材、当事者体験、フィールドワークなどを通して、それらの内容と大切さを具体的に教えています。今後も、それらを学んだ卒業生の活躍と私の研究・活動を通

葛谷 潔昭

短期大学部 幼児教育・保育科 准教授

ソーシャルワーク、子育て・家庭支援、社会的養育、発達障害児者支援、福祉経営が専門。日本福祉大学大学院修了。東海学園大学助手、通信制短大・専門学校教員を経て現職。

して社会と福祉・保育現場に「えん」のチカラと支えを届けてまいりたいと思います。



●短期大学部 キャリアプランニング科

自分の力を活かして
地域の役に立てることを学ぶ

ゼミナールでは、豊橋市大村地区のコミュニティーバス「かわきたバス」の利用促進の取り組みを学生と共にしています。自分のできることを通じて沿線の皆さんにバスに乗ってもらうという活動です。ある学生はパソコンの技術を生かして沿線双六を作りました。これは沿線の子どもたちにバスの存在をアピールできます。ある学生はデザイン力を生かしてバスキャラクターのキーホルダーを作りました。子どもだけでなく高齢者にも訴えかけることを意識しています。こうした

取り組みを通じて、学生たちは自分の得意分野が地域の役に立つことを実感していきます。

公務員として地元で働くことは、自分の力を地域に活かすこと。公務員試験の受験指導という筆記試験の対策に留まりがちですが、それでは1次試験しか合格しません。自分の長所を地域にどういった場面で生かすことができるかを考え見つけることも大事な学びです。こんなことに貢献できるという発想が受験にも大切です。自分に自信を持って明るく人

伊藤 圭一

短期大学部 キャリアプランニング科 准教授

滋賀大学大学院教育学研究科修了後、能動的学習をテーマとして研究に取り組んでいる。公務員試験支援センター長として地域に貢献できる人材の育成にも取り組んでいる。

生を切り開く、そこにつながる教育方法を研究しています。



学術研究支援室 | 外部資金調達を通じて研究開発をサポート

教育職員がより良い研究を推進し成果をあげるためには、大学内部の資金のみで賄えない場合もあり、外部研究資金の獲得が多くの大学で重視されています。こうした状況を踏まえて、本学でも2016年度に学術研究支援室が発足し、研究支援業務にあたっています。申請書作成支援や報告書類のチェック、必要書類の準備などのほか、研究資金の管理、学内説明や相談、ヒアリングも行っています。また、研究が公正に行われるように、国のガイ

ドライン等を遵守し、リスク管理に努めています。同室発足以来、業務全般に携わっている伊藤康裕室長は「関わる以上は採択につなげたい。その研究成果が新たな受託研究や共同研究につながればまた喜ばしいこと。研究の充実が学生の教育にも好影響をもたらすだろう」と期待。

今年度は40件以上の課題を管理。今までの実績は本学ホームページに「外部資金獲得実績」として公開されています。

http://www.sozo.ac.jp/outline/external_funds/



▲2019年度豊橋大学研究活動補助金成果報告 (2020年9月展示)



トピックス

本学と連携・協力協定を締結している国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所との共催による「豊川の治水」パネル展が、1月13日から22日まで、本学体育・文化ホール1階ミーティングコーナーで開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、一般公開は中止し、本学学生のみを対象に実施しました。展示は、豊川の概要と水害の歴史にはじまり、河川整備計画や各地域の治水事業を紹介。ハザードマップの元データとなっている浸水想定

区域図も公開されました。

また、豊川自然再生事業や市民に親しんでもらうための水辺のワークショップ「ミズベリング」、本学学園祭で開催した防災フェスの様子も展示されました。豊橋河川事務所は、「豊川の歴史や治水事業を知ることで、豊川にもっと興味をもっていただければ」と話し、防災啓発の促進につながることを期待しました。昼休みや教室の移動時にホールを訪れた学生たちは、過去の記録的災害などに興味を示し、語り合う姿も見られました。

●国交省との共催
「豊川の治水」
パネル展
豊川を知って防災への
関心を高める



経営学科と 理学療法学科による 合同FD研修会を 開催しました

経営学科と理学療法学科では、それぞれの専門分野の研究内容の理解促進を目的に、令和2年12月2日にオンライン形式で合同FD研修会を開催しました。研修会では、経営学科からは人工知能分野、特に物体認識やヒューマンインタラクションについて研究に取り組んでいる准教授・早瀬光浩先生に、理学療法学科からは疫学研究、転倒の疫学について研究に取り組んでいる講師・辻村尚子先生より研究内容の紹介

がありました。最初に早瀬先生から、これまでに研究してきた「姿勢推定のためのモデルの提案」や「特徴的な顔画像抽出」、「ドライブレコーダの解析」について紹介がありました。さらに、関わりがある領域の研究紹介として、人工知能と機械学習、ディープラーニングについて説明があり、画像認識や機械学習は姿勢推定・顔の表情の推定などで、理学療法と親和性が高いことが紹介されました。

次に辻村先生から、「健康寿命をいかにして延伸するか」を研究課題とした「転倒の疫学」について、これまでの知見の報告がありました。さらに、「医療介護連携」について、豊橋市におけるリハビリテーション専門職の連携における情報の提供方法、利用状況に関する調

査研究から抽出された問題の報告がありました。

大学の研究活動の活性化には、一つの分野だけで研究を展開するのではなく、他分野と連携したより大きな枠組みで研究活動を展開することが求められています。この他分野と連携・共同研究を実施するには、まずはお互いの研究内容を把握する必要があります。本研修会は、経営・情報分野と医療分野がどのような形で連携・共同研究を実施できるのかを検討する下地作りとして開催しました。経営学科と理学療法学科では今後も情報交換を継続して行い、学科横断の研究プロジェクトを立ち上げ、経営・情報×医療での共同研究の実施を目指します。

短期大学部幼児教育・保育科

青い空 コンサート

新しい表現
スタイルで上演

コロナ禍の状況にもあきらめず、「できないことをできるようにする」という学生たちの頑張りにより、2月10日、短期大学部幼児教育・保育科の学生43人による「第36回青い空コンサート」が開催され、学生たちが考えた「テーマパーク形式によるミュージカル編集版」という表現スタイルで、オリジナル脚本「リリーと仲間た

ち」を上演しました。対象は同科1年生と教職員のみとし、コロナ対策を万全にして実施しました。コンサートは、ホール前のミーティングコーナーで歓迎の音楽とリズム演奏(カブス)を披露し、その後、案内人の誘導で、1グループずつホールに入り、テーマパークのアトラクションをめぐるように、「リリーと仲間たち」(約20分)を楽しみました。物語5幕を大小5つのブースで展開し、照明、大道具、小道具にも工夫を凝らし、事前に録音した音楽とセリフ、合唱に合わせて演じ、ホール全体をステージに全員でお話の世界を創

り上げました。1回の入場を6~8人に制限し、来場者全員に見てもらうために計12回の上演をやりきりました。学外に向けては、本学ホームページから編集動画を公開予定です。



豊橋創造大学

保健医療学部 理学療法学科
保健医療学部 看護学科
経営学部 経営学科

豊橋創造大学短期大学部

幼児教育・保育科
キャリアプランニング科
専攻科福祉専攻
別科

豊橋創造大学大学院

経営情報学研究科 起業・経営情報専攻
健康科学研究科 健康科学専攻

